



平成29年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年4月28日
上場取引所 東

上場会社名 サントリー食品インターナショナル株式会社
コード番号 2587 URL <http://www.suntory.co.jp/sbf/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小郷 三朗

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 グローバルファイナンス部長 (氏名) 稲田 晴久 TEL 03-3275-7022

四半期報告書提出予定日 平成29年5月11日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第1四半期の連結業績（平成29年1月1日～平成29年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第1四半期	310,484	△0.2	16,095	28.8	15,515	31.3	6,781	11.6
28年12月期第1四半期	311,126	14.2	12,496	23.1	11,819	20.7	6,075	33.2

(注) 包括利益 29年12月期第1四半期 △2,223百万円 (-%) 28年12月期第1四半期 △21,227百万円 (-%)

(参考) EBITDA 29年12月期第1四半期 381億円 (9.7%) 28年12月期第1四半期 347億円 (19.4%)

指標の定義、計算方法等の詳細は「セグメント情報等」8ページをご覧ください。

のれん償却前四半期純利益 29年12月期第1四半期 140億円 (3.8%)

28年12月期第1四半期 135億円 (25.9%)

(注) のれん償却前四半期純利益（親会社株主に帰属する四半期純利益+のれん償却額）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第1四半期	21.95	-
28年12月期第1四半期	19.66	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年12月期第1四半期	1,341,039	587,825	40.1
28年12月期	1,366,000	602,447	40.4

(参考) 自己資本 29年12月期第1四半期 537,838百万円 28年12月期 552,229百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期	-	34.00	-	39.00	73.00
29年12月期	-	-	-	-	-
29年12月期（予想）	-	37.00	-	37.00	74.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年12月期の連結業績予想（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,430,000	1.4	98,000	4.8	95,500	4.7	47,000	2.0	152.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

(参考) EBITDA 29年12月期通期（予想） 1,860億円 (2.9%)

のれん償却前当期純利益 29年12月期通期（予想） 752億円 (0.6%)

(注) のれん償却前当期純利益（親会社株主に帰属する当期純利益+のれん償却額）

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年12月期1Q	309,000,000株	28年12月期	309,000,000株
② 期末自己株式数	29年12月期1Q	一株	28年12月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年12月期1Q	309,000,000株	28年12月期1Q	309,000,000株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、当社及び当社グループが本資料の発表日現在で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますが、リスクや不確実性を含んでいるため、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、当社及び当社グループの事業を取り巻く経済情勢、市場動向、為替レート等に関わる様々な要因により、記述されている業績予想とは大幅に異なる可能性があることをご承知おき下さい。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(セグメント情報等)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間(2017年1月1日～3月31日)の世界経済は、一部に弱さが見られたものの、全体として緩やかに回復しました。わが国経済においては、個人消費に持ち直しの動きがみられる等、緩やかな回復基調が続きました。

このような状況の中、当社グループは、お客様の嗜好・ニーズを捉えた上質でユニークな商品を提案し、お客様の生活に豊かさをお届けするという考えのもと、ブランド強化や新規需要の創造に注力したほか、各社の知見を活かしたコスト革新による収益力強化や、グループ全体での品質の向上に取り組みました。また、将来の持続的な成長に向け、各エリアにおける事業基盤の強化にも注力しました。

国内セグメントでは、「サントリー天然水」「BOSS」「伊右衛門」を中心とした重点ブランドの強化に加え、高付加価値商品への注力を通じ、新たな需要の創造に取り組みました。

国際セグメントでは、各エリアにおいて重点ブランドの一層の強化やコスト削減等を実施しました。欧州では、引き続き「Orangina」「Oasis」「Schweppes」「Lucozade」「Ribena」等の主力ブランドへ注力しました。また、アジアにおいては、健康食品事業、清涼飲料事業ともに、販売体制や生産体制等、事業基盤の更なる強化に注力しました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,105億円(前年同期比0.2%減)、営業利益は161億円(前年同期比28.8%増)、経常利益は155億円(前年同期比31.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は68億円(前年同期比11.6%増)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

[国内セグメント]

日本では、重点ブランドの強化に加え、高付加価値商品への注力を通じ、新規需要の創造に取り組みました。その結果、前年同期を上回る販売数量を達成しました。

「サントリー天然水」は、「清冽でおいしい水」「ナチュラル&ヘルシー」をブランド独自の価値として訴求し、堅調に推移しました。

「BOSS」は、引き続き、主力商品である「プレミアムボス」「レインボーマウンテンブレンド」「贅沢微糖」「無糖ブラック」「カフェオレ」に注力しました。また、「プレミアムボス」ブランドから、期間限定商品の「プレミアムボス リミテッド<ココと深み>」を2月に発売する等、新たな提案を積極的に行い、ブランド全体の販売数量は前年同期を上回りました。

「伊右衛門」は、3月に中味・パッケージをリニューアルし、お客様が求める「上質な急須のお茶」の色・香り・呈味をペットボトルで実現しました。積極的なマーケティング活動も奏功し、販売数量は前年同期を大きく上回りました。

健康志向の高まりを背景に注目を集める特定保健用食品は、当社が市場を牽引し、確固たる地位を築いています。引き続き、「伊右衛門 特茶」「特茶 カフェインゼロ」「サントリー 黒烏龍茶」等に注力し、特定保健用食品合計の販売数量は前年同期並みとなりました。

収益性向上に向けた取組みにも注力しました。包材費や製造経費の低減等、生産コスト削減に取り組んだほか、販売促進費・広告宣伝費については、効率的に投入しました。

自動販売機事業では、法人営業に注力しました。自動販売機専用商品の発売や、カップコーヒーマシン・給茶機等、様々な機材の提案を通じ、オフィス内の飲料需要の取り込みを図りました。

これらの結果、国内セグメントの売上高及びセグメント利益は、次のとおり、減収増益となりました。

国内セグメント売上高	1,896億円(前年同期比1.0%減)
国内セグメント利益	87億円(前年同期比22.2%増)

[国際セグメント]

欧州では、「Orangina」「Oasis」「Schweppes」「Lucozade」「Ribena」等の主力ブランドを中心に積極的なマーケティング活動を展開しました。フランスでは、小容量商品に注力し、「Orangina」「Oasis」の販売数量が前年同期を上回りました。英国では、特に「Lucozade Sport」が好調に推移し、「Lucozade」の販売数量は前年同期を上回り

ました。また、「Ribena」の販売数量も堅調に推移しました。スペインでは、業務用市場の減速に伴い「Schweppes」の販売数量が前年同期を下回りました。アフリカにおいては、ナイジェリアを中心に事業基盤の整備に取り組みました。

アジアでは、重点ブランドの強化に加え、各国において営業・流通体制の強化に取り組みました。健康食品事業では、主力市場のタイにおいて、流通体制を見直し店舗への配荷力を高めたこと等により、「BRAND'S Essence of Chicken」の販売が好調に推移しました。清涼飲料事業では、ベトナムにおいて、品質の高さを訴求したマーケティング活動を実施しました。インドネシアにおいては、ジャワ島を中心に配荷力の向上等、営業・流通体制の強化に取り組みました。

オセアニアでは、主力のエナジードリンク「V」とスポーツ飲料「Maximus」を中心に積極的なマーケティング活動を行い、販売拡大に取り組みました。

米州では、ノースカロライナ州でペプシコブランドの更なる販売強化に取り組み、伸長している非炭酸カテゴリーにも注力しました。

各エリアにおける売上拡大の活動に加え、グループ会社間で研究開発技術やコスト改善のためのノウハウを共有し、品質の更なる向上及び収益力強化に取り組みました。

これらの結果、国際セグメントの売上高及びセグメント利益は、次のとおり、増収増益となりました。

国際セグメント売上高	1,209億円（前年同期比1.1%増）
国際セグメント利益	146億円（前年同期比14.3%増）

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、償却及び在外子会社の為替換算による影響等でのれんが減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ250億円減少して1兆3,410億円となりました。

負債は、未払法人税等の減少等により、前連結会計年度末に比べ103億円減少して7,532億円となりました。

純資産は、為替換算調整勘定の減少等により、前連結会計年度末に比べ146億円減少して5,878億円となりました。

(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明

2017年12月期通期の連結業績予想につきましては、2017年2月13日に発表した予想から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	84,127	80,853
受取手形及び売掛金	161,037	153,461
商品及び製品	46,378	53,269
仕掛品	4,406	5,347
原材料及び貯蔵品	23,953	24,823
その他	54,858	54,292
貸倒引当金	△217	△242
流動資産合計	374,544	371,806
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具	132,599	134,285
その他	206,176	201,644
有形固定資産合計	338,775	335,930
無形固定資産		
のれん	407,283	394,699
商標権	150,827	147,736
その他	64,204	62,173
無形固定資産合計	622,316	604,609
投資その他の資産		
投資有価証券	10,290	8,703
その他	20,553	20,454
貸倒引当金	△582	△560
投資その他の資産合計	30,261	28,597
固定資産合計	991,353	969,136
繰延資産	103	96
資産合計	1,366,000	1,341,039

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	116,081	116,934
電子記録債務	12,742	14,007
短期借入金	72,239	65,849
リース債務	7,074	7,375
未払法人税等	15,849	10,174
賞与引当金	8,002	8,996
その他	178,389	168,755
流動負債合計	410,378	392,093
固定負債		
社債	40,000	40,000
長期借入金	199,283	207,993
リース債務	11,670	11,708
役員退職慰労引当金	246	272
退職給付に係る負債	8,784	8,795
その他	93,188	92,351
固定負債合計	353,174	361,120
負債合計	763,552	753,214
純資産の部		
株主資本		
資本金	168,384	168,384
資本剰余金	183,628	183,828
利益剰余金	199,116	193,846
株主資本合計	551,128	546,058
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,020	1,920
繰延ヘッジ損益	130	32
為替換算調整勘定	2,973	△6,265
退職給付に係る調整累計額	△4,023	△3,908
その他の包括利益累計額合計	1,100	△8,220
非支配株主持分	50,218	49,987
純資産合計	602,447	587,825
負債純資産合計	1,366,000	1,341,039

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)
売上高	311,126	310,484
売上原価	141,597	137,990
売上総利益	169,528	172,494
販売費及び一般管理費	157,032	156,398
営業利益	12,496	16,095
営業外収益		
受取利息	144	89
受取配当金	60	56
持分法による投資利益	215	228
為替差益	117	—
その他	505	322
営業外収益合計	1,043	696
営業外費用		
支払利息	1,387	746
為替差損	—	367
その他	332	162
営業外費用合計	1,720	1,276
経常利益	11,819	15,515
特別利益		
固定資産売却益	26	24
投資有価証券売却益	47	—
関係会社株式売却益	—	149
その他	—	7
特別利益合計	73	180
特別損失		
固定資産廃棄損	629	615
組織再編関連費用	372	266
その他	49	130
特別損失合計	1,051	1,012
税金等調整前四半期純利益	10,842	14,683
法人税等	3,440	6,169
四半期純利益	7,401	8,514
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,325	1,733
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,075	6,781

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年3月31日)
四半期純利益	7,401	8,514
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△66	△101
繰延ヘッジ損益	△726	△97
為替換算調整勘定	△27,729	△10,645
退職給付に係る調整額	△16	122
持分法適用会社に対する持分相当額	△91	△16
その他の包括利益合計	△28,628	△10,738
四半期包括利益	△21,227	△2,223
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△20,444	△2,539
非支配株主に係る四半期包括利益	△783	315

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内	国際 (注) 4			
売上高					
外部顧客への売上高	191,602	119,523	311,126	—	311,126
セグメント間の内部売上高又は 振替高	1	560	562	△562	—
計	191,603	120,084	311,688	△562	311,126
セグメント利益 (注) 3	7,146	12,752	19,898	△7,402	12,496

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない、のれん償却額です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

3. 報告セグメントごとのEBITDAは次のとおりです。

(単位:百万円)

	国内	国際	合計
セグメント利益	7,146	12,752	19,898
減価償却費	9,327	5,469	14,796
EBITDA	16,473	18,221	34,695

EBITDAは、セグメント利益に減価償却費を加えた数値です。

4. 国際セグメントを、現地法人グループの親会社の所在地別に分類した売上高、利益及びEBITDAの内訳は次のとおりです。

(単位:百万円)

	欧州	アジア	オセアニア	米州	国際計
売上高					
外部顧客への売上高	51,120	39,788	10,094	18,521	119,523
セグメント間の内部売上高 又は振替高	560	—	—	—	560
計	51,680	39,788	10,094	18,521	120,084
セグメント利益	5,771	4,486	910	1,584	12,752
減価償却費	2,339	1,950	366	812	5,469
EBITDA	8,110	6,436	1,277	2,397	18,221

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内	国際 (注) 4			
売上高					
外部顧客への売上高	189,594	120,889	310,484	—	310,484
セグメント間の内部売上高又は 振替高	0	365	366	△366	—
計	189,595	121,254	310,850	△366	310,484
セグメント利益 (注) 3	8,734	14,574	23,309	△7,213	16,095

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない、のれん償却額です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

3. 報告セグメントごとのEBITDAは次のとおりです。

(単位:百万円)

	国内	国際	合計
セグメント利益	8,734	14,574	23,309
減価償却費	9,029	5,730	14,759
EBITDA	17,763	20,305	38,068

EBITDAは、セグメント利益に減価償却費を加えた数値です。

4. 国際セグメントを、現地法人グループの親会社の所在地別に分類した売上高、利益及びEBITDAの内訳は次のとおりです。

(単位:百万円)

	欧州	アジア	オセアニア	米州	国際計
売上高					
外部顧客への売上高	49,498	42,328	10,505	18,556	120,889
セグメント間の内部売上高 又は振替高	231	134	—	—	365
計	49,730	42,462	10,505	18,556	121,254
セグメント利益	5,274	6,702	1,267	1,331	14,574
減価償却費	2,332	2,121	434	841	5,730
EBITDA	7,607	8,823	1,701	2,172	20,305

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。